

看護のポイントシリーズ7

流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）

ムンプスウィルスの感染によって起こります。潜伏期は14～24日あります。発熱と痛みをともなう唾液腺の腫脹が主な症状です。唾液腺には耳下腺と顎下腺があり、おたふくかぜでは耳下腺が腫れることが多いです。片側のみ腫れる場合も、両側が腫れる場合もあります。耳下腺と顎下腺が腫れる場合もあれば、顎下腺のみ腫れることもあります。おたふくかぜを治す治療薬はありませんが、痛みに対して、鎮痛薬を飲んだり、湿布をしたりします。耳下腺の腫れが引くまで感染力がありますので、登園、登校を控える必要があります。この期間の長さは個人差があり、短くて5日くらい、長いときは3週間くらいかかることがあります。発熱は最初の2、3日のみの場合が多く、全く発熱がない場合もあります。

耳下腺が腫れると、食べ物をかむときに痛みが強くなりますので、なるべく軟らかいかかむ必要が少い物を食べましょう。

合併症としては、髄膜炎、膵炎、睾丸炎、卵管炎などがあります。その中では髄膜炎が最も多く、頭痛、嘔吐が症状です。睾丸炎、卵管炎は年齢が大きくなってかかった時に起こりやすく、不妊の原因となる場合があります。合併症に注意しながら、なるべく安静にして過ごしましょう。

流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）は一度かかると免疫ができて、その後はかからなくなりますが、耳下腺の腫脹をおこす病気は流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）以外にもあります。耳下腺の腫脹を繰り返す場合は、流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）以外の病気が考えられます。

